【会合の記録】

■越谷市建築協定フォーラム　第2回運営会議（H22.11.13）議事録

３．その他

●越谷市 まちなみ景観 絵えてがみコンクールについて

・担い手事業の一環で、越谷市街づくり協調会が主催（越谷市協賛）する「越谷市 まちなみ景観 絵えてがみコンクール」の作品募集が始まっている。

・身近な住まいとまちなみ景観に目を向けてもらうことが趣旨なので、この開催要項を説明し、小中学生の子どもがいる会員には、応募・参加の依頼がなされた。

●シンポジウムの開催について

・平成23年2月５日に、埼玉県と共催による「誇れる住まい・まちづくり景観シンポジウム」の開催が決定した。
この説明と、各地区会員への参加要請があった。

・このシンポジウムの中で、本年度の「住まい・まちづくり担い手事業」の報告をする。
また、「こしがや・四季の路」の役員さんには、
「住まいのまちなみコンクール」国交大臣賞受賞後の活動報告をお願いした。

・もうひとつのプログラムとして「越谷市まちなみ景観絵えてがみコンクール」の応募作品の展示と授賞式を行う。
この授賞式はプログラムの最初が良いのではとの意見があった。

・建築協定だより「ふぉーらむ」第3号の発行は、このシンポジウムで配布するように準備する。

●その他

今回の表示板設置によって、より際だったのが「地区による事情の違い」である。各地区の戸数や面積の違い、建築協定締結や入居時期など団地の経緯によって、会員（住民）の認識の差もある。

例えば、広くて入口が複数ある地区では、必要な（欲しい）表示板の枚数も異なるため、限られた予算を公平公正に使うにはどのように進めればよいか、配慮が必要である。また、デザインや設置方法について意見が様々あるのは当然としても、そもそも設置したい・したくないまで話が及ぶと、収拾がつかなくなる。

合意を形成しながら、活動を一歩前へ進めることの難しさはあるが、行政・事業者・住民の三者のうち、やはり主役である住民が主体的積極的に活動してくれるようになるまでが、活動支援の重要なポイントであろう。このフォーラムという「場」ができただけでも、大きく前進しているのではないかと、世話人としては感じている。